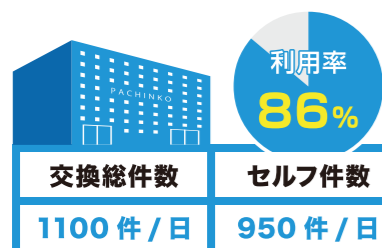


セルフ交換の経費削減イメージ

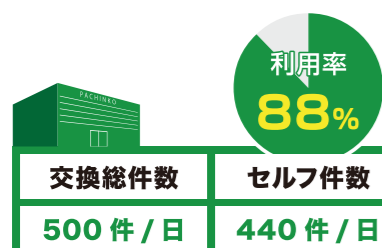
A店：総台数 1160 台
設置 POS4台のうち セルフPOS2台



1年間で 削減した時間を金額に換算すると…
時給換算 (¥1,500/h) で
約 867 万円 の削減!

5,779 時間

B店：総台数 700 台
設置 POS2台がすべてセルフPOS



1回の交換を 60秒とすると
時給換算 (¥1,500/h) で
約 400 万円 の削減!

2,676 時間

上の図はセルフ交換システムを導入した際の経費削減イメージ。計算式は次のようになる。

1日のセルフ交換件数 × 60秒 (1回の交換時間) × 365日 × 時給 = ?

「セルフ交換POS」と聞くと、ユーザー側の利便性向上はイメージしやすいが、実際にはどれくらいスタッフの業務効率化、省力化、経費削減に繋がっているのか、掴みにくいところもあるだろう。

そこで見てもらいたいのが上の「セルフ交換の経費削減イメージ」だ。これは実際の導入店でのケースを分かりやすく図表・数値化したものとなっており、A店（総台数1160台）、B店（同700台）を例にあげている。

A店では1日の総交換件数が1100件あり、セルフ交換率は950件（約86%）だった。スタッフが1回の交換作業

に掛かる時間を60秒とすると、年間では約5779時間を要することになる。これを時給1500円で計算すると約867万円。これが年間での経費削減効果にあたる。これを5年、10年と運用すればどうだろう。交換件数やセルフ交換の割合にもよるが、この削減効果は決して軽視できない大きなものではないだろうか。

近年、セルフ交換POSの導入件数は右肩上がりが続いている。業務効率化と省力化を実現する確実な手段であり、スタッフの働き方に変革をもたらすこと間違いなしだ。その中でも、景品交換と精算をその場で完結できる利便性、ボイスアシストによるユーザーサポート、硬貨取り忘れセンサーなど、これまでのセルフ交換POSの課題を解決する機能も兼ね備えた『EVO50』は、ホールにおける経費削減策として必須の設備といえる。同製品がスタンダードになる未来も遠くはない。

年間数千百万円の経費削減効果も

ウンターレスとし、先の図の組み合わせで壁際などのスペースに複数台設置して交換・精算を完結するなど、次世代の新たな環境を創出するホールも現れている。

カウンター不要でどこでも設置が可能

『EVO50』のもう一つの特長は、どこでも設置が可能という点だ。従来のセルフ交換POSは、閉店間際等のカウンター混雑時にスタッフ（有人）を介さずに景品交換と残高精算をその場で完結できる点。従来のセルフ交換POSの進化系にあたり、スタッフを介することなくユーザー自身で景品交換ができると同時に、忘れがちな精算までも一度に完結することができる。これによりスタッフの業務負担は大幅に削減されるとともに、ユーザーの利便性も大きく向上させることができる。

セルフPOSの全国導入状況
(2024年12月現在)
500店舗突破!

エヴォールスマートセルフ交換機



スマートセルフ交換機 **EVO50**
POSを介さずその場で景品交換と精算を行える

導入が進む「セルフ交換POS」だが、その機能がより進化した次世代機が(株)マースエンジニアリングからリリースされている。その名も『EVO50』。POSを介さず、その場で景品交換と精算が行える点が特長だ。

景品交換・残高精算をその場で完結

スタッフの「業務効率化」「省力化」、ユーザーの「利便性向上」への最適解

業務効率化・省力化は待ったなしの状況に

少子高齢化に伴う労働人口の減少、採用難に端を発する人手不足により、パチンコホールにおいても業務効率化と省力化が大きな課題となっていることは周知の通り。日々の営業の中で、顧客対応を損なわない形でスタッフの負担軽減を実現する業務フローの構築が急務といえる。

そんな中、マースエンジニアリングでは、景品交換の業務フローを劇的に改善する新製品をリリースしている。それがスマートセルフ交換機『EVO50』だ。

同製品の特長は、POS

DATA

MARS

株式会社マースエンジニアリング



●電話 03-3352-8555
●所在地 東京都新宿区新宿1-10-7
●WEB <https://www.mars-eng.co.jp>